

核のない世界へ

半田市立青山中学校 3年 杉江慶虹

1. ツアーに参加したきっかけ

私はYouTubeである一本の動画を見つけました。その動画は「はだしのゲン」作者、中沢啓治さんが核の恐ろしさを小学生へ伝えるというものでした。その他にも被爆した当時の様子や放射能の後遺症などが生々しく語られていました。そこで私は原爆の恐ろしさを実際に肌で感じ、たくさんの人たちにそれを知ってもらいたいと思いこのツアーに参加しました。

2. 原爆ドーム・平和記念資料館での学び

原爆ドームは少し衝撃を与えれば落ちてしまい、そうなレンガの外壁やむき出しになった鉄骨が当時の悲惨さを物語っておりとても悲しい気持ちで胸がいっぱいになりました。資料館に入ったすぐのところに原爆で顔と腕にやけどを負った少女の写真が飾ってありました。私にはその少女が何かを必死に訴えかけているように見えました。中に入るとそこには私の想像をはるかに超えた戦争の惨状が広がっていました。やけどを全身に負った写真や遺品からは「痛い」「辛い」という思いが伝わってきました。そこで私は「もう2度とこのようなことを繰り返してはいけない」と改めて思い「世界に伝えたい」という気持ちが強く芽生えました。



3. 平和ツアーを終えて



今回原爆ドーム・平和記念資料館を訪れて平和とは何かについて改めて考えさせられました。現在の世界核弾頭所有数は12,520発。そして被爆者の人数が年々減っているのが現状です。そこで今私たちにできることは核の恐ろしさを正しい知識を学び、これから生きていく人たちにそれらのことを伝えていくことだと思います。写真の少女もそれを訴えていたと思います。ロシアのウクライナ侵攻による3度目の核使用が注目されている今、もう一度核の恐ろしさと真剣に向き合ってみませんか。